

氏名 Name : 小野寺 穂垂

題名 Title of the essay : 記憶 ～巡らせるアート～

記憶～巡らせるアート～

記憶とはひどく曖昧で、思い出とは記憶のデータを再構築された幻想でしかない。しかし、そんな時、たとえ幻想であっても頭の中でぐるぐると記憶を巡らせるよりかは、視覚や聴覚すなわち五感で感じることはまたリアルさが増す。

記憶を残す方法は様々ある。例として挙げると、私が今行っているように、文章として残す方法。誰かにそのことを話すことによって記憶を定着させる、陳述記憶。写真や映像として瞬間を切り取る方法。そして、絵画や立体作品といったアートとして残す方法。その他にも沢山の方法がある。

記憶とは、思い出すことができこそ記憶となる。そんな"記憶"を残す役割がアートには存在するだろう。アートとして残す方法はイメージによる記憶が伴うため、右脳が活発に利用される。右脳は視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚、最初に話した五感を担い、想像力を形成されやすいそうだ。想像力が柔軟になるということは、記憶もより分かり易く得られるという事にもなるだろう。そもそも、なぜ、私がこんなにも冒頭から記憶の在り方に、そして「アート」という、一見、記憶と似ても似つかないものを関連付けようとしているのか？気になり始めた方もいるかもしれない。

私は、数年前の出来事、そして将来を見据えたとき、残したいものがあることに気づいた。いつか、大人になり社会の中で生きていくことで自分自身の記憶を忘れていくものになるのではないか、そう恐れた。数年前の出来事というのは、東日本大震災のことである。私は宮城県の気仙沼市という所に住んでいる。もしかしたらこの地名を耳にしたことがある方もいるかもしれない。残念ながら、この震災で多くの被害を受けた。当時、記憶媒体のひとつであった写真。多くの人が家を失ったことでその写真たちは、海の藻屑と消えた。しかし、奇跡的に家族写真や卒業アルバムが残ることもあった。

私の周りでは沢山の人が家や家族を失った。みな誰を攻めることも無く、自然の摂理のもとになったと自分に言い聞かせるように震災後、生きていた。そんなとき自分の断片である写真が瓦礫の中から見つかり、そんな方たちがとても喜んでいてことを、今でも思い出す。

その写真を撮った瞬間はきっとありふれた幸せを切り取ったまでに過ぎない。しかし、月日が経ち、それは価値のある幸せであったと気づく。このときに残すということ、記憶を知ることの大切さを感じた。

そして、高校生になり、私、美術を学んでいく中で作品をつくるという事も記憶をつくり、残すことであると考えた。美術にもなりうるアートという存在は、現代アートというものも生まれ、毎日、進化を遂げている。しかし、そんな現代アートが存在するうえで、先人の知恵がなければ確立しなかったものである。美術の教科書でみたことのあるような、ゴッホやピカソ、モネ、レオナルド・ダ・ヴィンチがいなければ「今」は存在しえなかった。そんなとき記憶の価値を知るだろう。

絵を描くことに一点を置いてみると、絵画が残されていないければ、技法や使う道具も知る由もない。私たち高校生が絵や立体作品を美術部などという部活動に入り何かを生み出すこともしなかつただろう。作

氏名 Name : 小野寺 穂垂

題名 Title of the essay : 記憶 ～巡らせるアート～

品をつくりわくわくしたりする、感性が磨かれることも無い。先人たちはこの想いを知ったからこそ実践し、多くの人たちに大切に守り引き継がれ、私たちに伝えてくれた。そんな時、残されていることに感謝の気持ちが強くなる。

私は高校一年の冬から、二作続けて気仙沼の街や風景、人をモチーフにして絵画を描いている（図1）。

一年生当初、私は自分の作風について悩んでいた。先輩の絵を見て人物画に憧れてみたり、と迷走していた。そんな時自分の本当に描きたいものは何なのかと考えた。しかし、考えていくことで根本的に、自分の視点がずれていたことに気づいた。私は、描きたいものを描くというより、誰かが見て喜んでくれることが好きなのだ。そうして、高校生である今しか感じられない気仙沼を描こうと決めた。すなわち、私の記憶であり、気仙沼の記憶だ。何年かが経ち、また震災の時のように誰かの大切な記憶が失われるときがくるならば、私の絵を見て気仙沼の記憶が再構築されるような絵を描いていきたいと思う。そしてアートによって繋がる想いを、また誰かに共有してもらいたいと思う。アートとは常に作品が中心なのではなく、その思いやコンセプトを受け取る私たちによって完成されるものであることを忘れてはならない。そして、どういう記憶を得ることにより、記憶の断片が繋がるかということも考える必要があるだろう。



図1 作者 小野寺穂垂《思い馳せる》  
100,0×80,3・アクリル・2017年

引用・参考資料

記憶術のやり方 暗記する方法のまとめ「右脳記憶と左脳記憶の違い」

(<http://mnemonic-device.info/24-right-left.html>)